

中萩校区まちづくり集会 開催結果報告書

開催日時 平成25年7月2日(火) 19時～20時40分
場所 中萩公民館 大会議室
参加者数 男74人 女17人 合計91人



1. 校区の課題

課題名 (旧国道を含め生活用道路の安全対策について)

質疑応答 (要約)

【質問事項】

昨年も、「中萩小学校の通学路である旧国道の安全対策について」質問をさせていただきました。旧国道については、ずいぶん前から交通事故の危険性が指摘されており、萩っ子見守り隊や小中学校PTAによる立ち番、交通指導員等による指導、路側帯のカラー舗装や車両の速度規制などの注意喚起など、これまでに事故防止策に努めていただいております。また、昨年は、『速度を落とせ』、『車のスピードを控えめに』などの注意表示看板を市道路課や連合自治会、小学校PTA、防犯協会中萩支部などの協力により6カ所に設置していただいたり、交通安全放送を行うなどソフト面での取り組みも行っております。

旧国道は、通学路であり付近住民の生活用道路であります。現状では、交通弱者である児童や高齢者の方々が、いつ、事故に遭遇しても不思議ではないと不安になります。速度規制については、地域住民の方々の理解が必要であり、警察においても苦慮されているとお聞きいたしております。旧国道に限らず地域住民の方々が身近に利用している生活用道路は同様なことが言えると思います。

先日新居浜警察署でお尋ねしたところ、昨年中（H24年）の中萩校区での交通事故件数は93件で内生活道路では53件、その他11号線の40件より多い。また一昨年（H23年）も生活用道路は51件と11号線の事故31件より多いのであります。小学校校長先生にお尋ねしたところ、「小学生の交通事故件数は2件あり、打撲で済みましたが、児童に注意を促しており、今後ともPTAも注意していますが、地域の皆様、関係者の方々よろしくをお願いします。」とのことでありました。

このようなことから、現状を少しでも改善する対策を、市として何か考えていることはないかお伺いします。たとえば、イオン付近（西松屋）の進入路道路などにある車のスピードを落とすための土留め（ハンプ）の設置や、学校の学期初めに、防災行政無線で生活道路内での車両の減速など交通安全についての喚起を促す放送行うなども考えられます。市としてのお考えをお伺いします。

【回答 市長】

まず、ご提案をいただきました交通安全に関する注意喚起のための放送をすることにつきましては、事故防止の啓発、注意喚起を行う手段の一つであると思います。これまでも取り組まれておるとのことですが、今後も各自治会において、新入学時など必要な時期に適宜、実施していただければと思います。

次に、中萩校区におかれましては、交通安全協会支部や交通指導員をはじめ、関係機関、団体の皆様に、登下校時の通学路等での街頭指導や見守り活動等に、非常に熱心に取り組んでいただいております。交通ルールの遵守等の呼びかけも行っていただいております。市におきましても、防災安全課の交通安全指導員が、幼児から高齢者まで、すべての世代を対象に交通安全教室を開催しており、平成24年度におきましては、中萩校区内の保育園で各3回、小学校で2回、学童クラブで2回、中学校で1回、高齢者対象に3回実施しております。

また、新居浜警察署におきましても、ドライバーに対して毎月交通安全の日（20日）には、登校時間帯に取締りを実施したり、歩行者や自転車利用者に対しては、要望があれば随時、交通安全教育や指導も行っており、今後も継続して実施していくと伺っております。

なお、現在、中萩小学校の近辺（中須賀上原線～中萩小学校西筋線の間）について、登校時間帯に通行規制が行われておりますが、新居浜警察署に確認しましたところ、規制区間を広げることににつきましては地元の総意があれば検討するとのことでした。また、速度規制につきましても、現在、中須賀上原線～中萩停車場支線（中萩小学校の西黒岩橋手前）の間に30キロ規制が施されており、この規制区間の拡張につきましても同様に、地元の総意があれば検討するとのことでございます。

いずれにいたしましても、今後とも、新居浜警察署をはじめ、中萩校区の関係機関、団体と連携を取りながら、事故防止並びに安全意識の向上等に努めてまいります。

また、御提案のハンプにつきましては、通常、道路の屈曲部や坂路、見通しの悪い交差点等で安全に通行するために自動車等を局所的に減速させるためのものであり、一定区間減速走行させるということであれば警察による速度規制が適正かと思われます。しかしながら、特に御指摘の旧国道につきましては、交通量も多く、通学路でもありますので、現状の白線やカラー舗装の適正な管理に努めるとともに、ハンプにつきましては局所的に自動車等に減速を促す必要のあるところがあれば今後検討いたします。

【質問】

防災無線で交通安全の放送をしていただけないか。

【回答 市長】

基本的には防災のための放送ですが、ごみの問題等行政放送をすることは可能であるため申し出があればやります。

【質問】

防災無線を使った交通安全に対する放送をしてほしいとの提案がありましたが、私の地区では逆に防災無線を含め色々な放送が非常にうるさいと苦情が相当出ている。これ以上放送が増えるとさらに苦情を言うてくる人が想定されるので、そこそこの程度でやってもらわないと困ります。

また、道路に関してのことですが、元々建築確認をした上で工事をし、原状復帰の形でブロック塀を道ぎりぎりいっぱいまで伸ばしてくるケースがあるが、これはおかしい気がする。建築確認を取ったのなら最後まで調べていただいて前に出てきているのなら引いていただくよう指導願います。

【回答 市長】

広報については、色々御意見はあろうと思いますが、連合自治会等で御相談していただき、必要な放送はするけれどもそうでないものは控えるというルールを中萩地区で作っていただけたらと思います。

建築確認の件につきましては、古くから問題があり、建築確認では後退しているけれども確認が終わった後、ブロック塀を前に出すとよく言われております。実際にそういうところがありましたら、ぜひ市役所に通報いただければ指導をいたします。

※ 再検討事項

なし

2. その他

【質問】

市の重点事業の防災関係の話の中で、市内66か所の避難場所を指定しており今後も増やしていくとのことでしたが、御存じのように中萩校区は東西4キロ、南北12キロあり、そこで2万人の方が生活しています。市の人口の16%程度を有するマンモス校区にもかかわらず、避難場所は公民館と小中学校の3か所しかなく、2万人の方が避難する場所が確保されているとはいえません。中萩は東川を境に萩生地区（8千人）と中村地区（1万2千人）に分かれています。できればそれぞれの地区の自治会館を5～6か所、特定の避難場所という形で早急に認定していただきたい。

また、21か所の公民館に災害時用の簡易トイレや毛布、発電機等の設置が完了したとの話でしたが、市議会答弁の中で市民部長が、飲料水等については、本庁や消防署で備蓄していると回答していました。その設置等につきまして、3千～4千人規模の住民のいる公民館と同じように中萩公民館に均等に配分することについては疑問に感じております。できれば人口密度に応じた適正な数量の配置を早急に御検討願いたい。

次に、広瀬公園グラウンドの整備についてだが、グラウンドの1段上の駐車場部分については駐車場での利用以外考えていないとのことですが、災害が起きた場合の避難場所にもなるのではないかと考えており、ぜひ整備を進めていただきたい。現在は、でこぼこで、子供や高齢者が通行する際に転びかねないような状況であるため、ある程度人が歩いてでも入っていけるような整備をお願いしたい。30年以内に東南海地震が60%～70%の可能性で発生すると言われており、この上にある岡村断層もそれに連動して動いた場合、おそらくかなりの被害が出るのではないかと非常に不安に思っている。整備することで次の段階に進めるという思いがあり、また、そこを整備することで中萩の上原地区だけでなく、山田や角野の東側地区の方も避難場所にできるのではないかとも思っている。今我々のことだけでなく、これからの子供や孫達に安全安心に暮らしていけるような環境をぜひ作っていただきたいと思っている。

【回答 市長】

まず、災害時の避難箇所については、中萩校区は市内でも一番人口が多いということでそれなりの数が必要かと思えます。現在の66か所の避難所は地域防災計画で定めた避難所でございます。それを定めることで万一災害があればそこを市で管理しながら避難所を開設しなければならないということになります。ただ、それ以上になりますと市でも対応が難しくなりますので、市が管理する正式な避難所とそれ以外の特別な当面の避難所と分けて考えその設置についての検討を行うこととなります。先日、県の方で東南海地震の被害想定を行っておりますが、それでは震度7の場合、津波については新居浜3.4メートルということでした。現在は、家屋が倒壊して何人の方が死傷されるのか、あるいは津波が来たらどれだけの家屋が浸水するのかなどの被害想定は出ておりませんが、近々具体的なものが出ますので、それによって地域防災計画の見直しを行います。その中で避難所に

については検討させてもらったらと思います。

また、資機材につきましても、人口によって基準がありますので、それに基づいて整備することとしております。そのため、公民館に設置する場合もそれぞれの人口規模に応じて配分するべきと思いますので、それも含めて、地域防災計画の中で必要数量の検討を行います。

広瀬グラウンドにつきましても避難所として確保したいということですが、中萩校区にはそういう目的で、すでに、きらきら公園を整備いたしております。ただ、上の方にも同じような目的で場所を確保する必要性も感じておりますので、これにつきましても、地域防災計画の中で、避難所として必要と判断すれば、それなりの整備を進めていきたいと思っております。

【質問】

土橋地区の国道11号線から新居浜南校入口の方へ上る道のことですが、車同士の事故だけでなくバイクのスリップ転倒事故、自治会のゴミステーションへの追突事故（昨年は1回、今年度は2回ブロックをやり替えている）など、自治会としては多発する事故に対して大変困っています。その対策のために、先日も市の道路課に白線を引いて対処したいとお願いに行きました。また、徐行についても何とかならないか尋ねたところ警察の許可がいるとのことでした。自治会としては非常に危険を感じておりますので、もう少し、道路課も積極的に動いていただき、警察と協力して早急に改善をお願いしたい。

【回答 建設部総括次長】

白線につきましては、担当に確認し、やることになっているのであれば早くやれるよう努力します。徐行等の交通規制につきましては、道路課で勝手にできませんので、地元から要望が出た場合は、警察の交通安全課と協議しておりますが、同じような要望がたくさん出ておりますことから中々スピーディに動いていないのは事実です。しかし、本日の要望をお聞きしましたので、再度交通安全課と協議をいたします。

【質問】

下水道計画の確認をさせていただきます。且の上地区が市街化区域からはずれて20年近く経ち、その間、都市計画税は払い続けたが、整備計画は全く進んでおりませんでした。やっと、その整備計画の優先順位として3番目に入りましたが、下水処理は幹線道路に導かれていません。且の上エリアで発生した汚水はどのように処理されるのでしょうか。

【回答 環境部次長】

市の下水処理につきましては、国領川河口にある下水処理場に市内全域からの下水道パイプがつながっており、汚水は全部ここに流れてきて一括処理し、瀬戸内海に放流してお

ります。且の上の下水処理につきましては、国道11号線バイパスのところに下水管が入ってきており、西河川の手前まで幹線が入っております。すでに11号線の拡幅された、以前シンデレラ館のあった前あたりは下水管の埋設を進めています。今年度も用地買収の終わったところから下水管の埋設を進めていくことになっていますので、あとは現道の中に下水管を入れ且の上の地区の整備を行うこととなりますが、整備後、且の上地区の汚水は、埋設させた下水管を通して県道から国道バイパスを経て最終的には菊本にある下水処理場へと流れて行き処理されることとなります。